

29amA-248

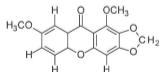
遠志中の一酸化窒素産生抑制成分に関する研究

○増田 佳奈¹, 松尾 洋孝¹, 山本 有香², 吉開 会美², 西澤 幹雄², 池谷 幸信¹
(¹立命館大薬, ²立命館大生命科学)

【目的】遠志 (*Polygala tenuifolia* の根) は、安神薬・去痰薬として用いられる他、乳腺炎や腫れ物に対する使い方から、遠志には抗炎症作用が期待された。そこで、炎症のメディエータである一酸化窒素 (NO) の産生抑制作用を指標として、遠志の抗炎症成分の解明を行うことにした。

【方法】遠志のメタノール抽出エキスを酢酸エチル可溶部、*n*-ブタノール可溶部、水可溶部に分画した。このうち、まず酢酸エチル可溶部の分画精製を進めた。NO 産生抑制活性は、Wistar 系ラットから調製した初代培養肝細胞に遠志成分と炎症性サイトカインの IL-1 β を添加し、8 時間培養後の NO 産生量を Griess 法で測定した。細胞障害性確認のため培地中に放出された乳酸脱水素酵素 (LDH) 活性を測定した。

【結果】酢酸エチル可溶部から、キサントン成分として、1,7-dimethoxy-2,3-methylenedioxyxanthone, 1,2,3,7-tetramethoxyxanthone, 6,8-dihydroxy-1,2,4-trimethoxyxanthone 他を分離した。このうち、1,7-dimethoxy-2,3-methylenedioxyxanthone に NO 産生抑制作用が認められ、遠志の抗炎症活性に対するキサントン成分の関与が示唆された。他の成分についても、現在研究中である。



1,7-dimethoxy-2,3-methylenedioxyxanthone

1) 鈴木 洋, “漢方のくすりの辞典 第2版”, 医歯薬出版, 東京, p.47-48 (2011).